

平成 19 年度 第 2 回長野市総合計画審議会（H20.2.28）議事の内容

議事（1）重点施策の取組状況及び今後の展開について事務局から説明（省略）

- ・ 「1. 多様な観光交流の推進」に、外国語の観光パンフレットの制作とあるが、中身はどのようになっているのか。
英語、ハングル語、中国語、台湾語の4種類の観光パンフレットを制作している。
- ・ 街の案内標識にも外国語を記したものが必要なのではないか。外国人旅行者の誘致には非常に大事なことはないか。
どのようなところにやったら良いのか、道路管理者とも協議しながら、効果的に考えていく。
- ・ 他の観光地の場合はだいたい1泊はするが、長野市の場合は、善光寺と松代へ行って帰ってしまう傾向にある。観光地を周るようなパンフレットを作成しても良いのではないか。
以前は、川中島バス、長電バスで観光地の周遊バスを運行していたが、採算が合わず、廃止された経緯がある。今後は、善光寺御開帳等の様々な機会を捉えながら検討したい。
- ・ 「2. 多彩な文化の創造と文化遺産の継承」について、長野市は、他市と比べると文化施策の核となるような事業が見えない。今後の方針や実際の事業としても、将来的な視野に入れて検討してもらいたい。
- ・ 長野市内では、特別支援教育支援員はどのくらい必要なのか。
長野市内では、特別な支援を要する子どもは小・中学校あわせて340名ほどいる。計算上では、特別支援教育支援員は65人くらい必要ではないかと言われているが、そこまでつけきれないのが実情である。
- ・ 現在の教職員の研修や講座の受講等の取組が何となく少ないような感じがする。緊急の問題として、もう少し充実させた体制はつくれるものか。
教職員の研修については、長野市教育委員会が一手に行い、教育センターで開催している。新たに発達障害等の名称が浸透してきたが、教職員の理解が深まってきていると考えている。また、長野市内では、小・中学校77校すべてを人権同和教育の研究指定校とし、人権同和教育を中心としながら展開している。
- ・ 学校施設の耐震補強にかかる費用は、通常の学校施設にかかる費用にプラスして、どの程度、割増になるのか。

- 補強、建て替えをあわせて約 600 億円と考えている。
- ・ 耐震補強ではなく、建て替えるとなると、何割増くらいになるのか。
建て替えが必要なのか、どの程度の補強が必要なのか、細かい診断をしてみないと分からない。現時点では概算ということで理解してもらいたい。
 - ・ 企業誘致の体制づくりの中身はどうなっているのか。
大学等の連携や、互いに一つの中小企業の核として、関連する業種が連携するような動きも出てきていることから、企業の誘致はもちろんだが、地元の企業や中小企業を長野市へ誘致して、それぞれ展開してもらおうような策を考えていきたい。市街地も含めて、空き工場や空きビルを使用して、具体的に企業誘致を進めていきたい。
また、長野市の特色ある、将来にわたって発展する産業を呼び込めるか、育てていけるか。特に食品、印刷、ソフトウェアといった産業が進んでいるので、これを生かしながら、特定の産業を集積するような方向で研究していきたい。具体的な策としては、企業立地推進室を設置して研究していく。
 - ・ 企業誘致に、長野に縁のある人たちをどんどん利用することはできないのか。
首都圏、特に東京を中心に、長野に縁のある人たちにお願いをして、首都圏応援団をつくった。その中に、東京の企業の有力なポジションにいる方もいる。そういうところからも、長野市も企業誘致を進めていこうと考えている。
 - ・ 放課後子どもプランについて、19 年度の取組状況として、パブリックコメントを経て、2 月下旬に「長野市放課後子どもプラン」を策定予定とあるが、どのような状況になって策定予定に至ったのか。
放課後子どもプランは、教育委員会と保健福祉部が共同で進めている。パブリックコメントについては、私たちが示した原案に対して、原案の方向を変える、あるいは修正をするというものは具体的にはなかったが、PR が不足していたように思う。予算的には 7 校分の予算をとってある。
 - ・ 20 年度からモデル校を決めて放課後子どもプランを推進するとあるが、どの程度のものと考えているのか。何年までに推進するのか。今後の方向付けについて聞かせてもらいたい。
地元の住民の理解がなければ進んでいかないので、楽なところばかりやるのではなく、課題のあるところもモデル校としていきたい。来年度以降は、地域に職員が行き、具体的な内容について説明し、順次進めていく。
 - ・ 放課後子どもプランは、他の市町村はどの程度進めているのか。
現在のところ、長野市の放課後子どもプランのような、放課後児童健全育成事業と放課後部分教室を一本化した形でやっている市町村はない。
 - ・ 放課後子どもプランについて、21 年度までにはまとめていきたいというような噂を聞き

ているが、どうなのか。

放課後に子どもを預けたいという親が非常に多くなってきている中で、福祉として保護しなければならない子どもはもちろんだが、それ以外の希望する子どもたちについても、できるだけ学校や従前の児童センターを使って受け入れをしていきたい。できるだけ早い時点で導入ができればという意味からすれば、21年度を目指してやっていきたいと考えている。

- ・ いろいろな状況からすると、放課後子どもプランを21年度までにまとめることはちょっと厳しいのではないかと。私たちとしても、ある程度マスターしながらいきたいと思っているので、21年度を切られると苦痛である。また、保護者とも話をしなければならないので、時間を与えてもらいたい。

地域の住民の理解がない中で、何が何でも21年度からやるということは考えていない。相談をしながら進めていきたい。

- ・ 地域の住民の理解が得られないことには、放課後子どもプランを進めていくことは不可能。分かりやすい説明をお願いしたい。
できるだけ分かりやすい説明を心がけていく。

議事（2）特定課題プロジェクトの取組状況について事務局から説明（省略）

- ・ ペDESTリアンデッキとは何か。
人工地盤。駅ビルや商業ビルがあり、新幹線が橋上から入ってくるため、いきなり平地へ降りられない。そこで、中間的に人工的な構造物をつくることから、人工地盤と言う。
- ・ 長野駅の善光寺口は、2階から降りるような形のデザインになれば、混雑が緩和されると思うが、そういったことは検討したのか。
新幹線が開通するときに検討委員会でいろいろと議論をしたが、そのような検討をしたことはなかった。今後は、まずはJRと、キヨスク等はどうするのかという議論をしながら、検討していきたい。
- ・ ペDESTリアンデッキについて、選択肢を提示しながら検討・決定すると記載されているが、ペDESTリアンデッキの事業を進めていくということか。
ペDESTリアンデッキを全部張るか、やめるかという選択肢も含んでいる。
- ・ ペDESTリアンデッキをどうするか検討してきた時代背景と、今の経済状況や人口減少、高齢化といった時代背景では大きく変わってきているが、その辺はどのように考えているのか。
確かに、社会情勢が大きく変化している中で、旅客数の推計や、バス、タクシーの需要について、調べ直さなければならない。駅の拠点整備として考えているものは再検討す

る必要がある。

- ・ 「公共施設への新エネルギー導入、省エネ対策」について、新エネルギーを普及させるためには、公共施設等で使われるのが一番良いと思うが、現実はまだ導入されていない。柔軟な発想で計画を立ててもらいたい。

- ・ 都市計画マスタープランについて、各地区の住民自治協議会で計画を策定した場合には、人的・資金的にも支援するという意味で良いのか。

都市計画マスタープランは、都市計画区域外については想定していないため、30地区にはならない。また、道路や施設等の行政だけでやるもの以外に、地域でやるものを早くしなければならないということで想定しているため、住民自治協議会の数と都市計画で考えている数はイコールにはならない。

この街づくり計画に関しては、各地区の住民自治協議会にいろいろな意見をもらいながら、市が実施主体となってやるべきであると考えている。

- ・ 横断型プロジェクトというのは新しい取組。この点に着手したことは非常に評価すべきことではないか。また、市民に見えるような形にもっていけば、より小さな投資で大きな効果が得られるのではないか。